

# 栃木県原水協ニュース

No 188号 2019年3月4日  
 原水爆禁止栃木県協議会  
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30  
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401  
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

## 3・1ビキニデー集会に栃木県から12名参加



2月28日、「2020年・被爆75年、核兵器のない世界へ共同と行動―核兵器禁止、憲法9条を守り活かす日本を実現しよう―」をテーマに3・1ビキニデー日本原水協全国集会が静岡市内で開かれました。

栃木県の代表団は12人が参加。初参加者は今年8人です。集会には全国から750人の参加で、日本原水協安井事務局長の基調報告は、被爆75年2020年に向けたたたかいは「核兵器のない世界をきりひらく正念場」と位置づけ「核兵器のない世界」をめざす壮大な運動を呼びかけました。

日本被団協事務局長の児玉三智子さんは、唯一の戦争被爆国民として、次世代に歴史の事実を伝え、継承していきましよう」と訴えました。

分科会で、初めての参加者は

「ビキニ事件と原水爆禁止運動」に参加し、学んできました。その後、焼津に移動し夕食交流会を行いました。

1日、前日の雨もあがり、9時30分から3時の墓参りを行いました。故久保山愛吉氏（第5福竜丸元無線長）の墓参りには1300人参加し、核兵器廃絶の願いを込めて歩きました。

午後には2019年3・1ビキニデー集会には1500人参加し、主催者の大和静岡県原水爆被害者の会会長のあいさつで始まり、各界の講演や、文化行事など、充実した集会となりました。

栃木県からの参加者から、「こんなに長い間、続けられてきたこと初めて知りました。核兵器廃絶の重要性がわかりました」「現地に行って体感する事で、新たに運動の重要性理解できました」などの感想も寄せられました。

### 3・1ビキニデーに参加して 栃木県保健医療生協

金田 みな子

急な参加となり、80歳にして初めての3・1ビキニデーでした。

第1日目の分科会では「原発ゼロ、被災地支援、自然エネルギーへの転換をめざして」に参加しました。原発も核兵器も元は同じものであると言っていました。この分科会には、若者も多く参加していましたが、特に嬉しかったのは、山梨県の民医連の女性職員が山梨大学医学部6年生の奨学生と参加していたことでした。

今年第五福竜丸が被爆して65年、来年は広島、長崎が被爆して70年、福島原発事故から8年にもなりますが、人の記憶からも忘れられがちです。未だに核廃絶の運動を続けなければならぬのかと、少し重い気持ちでいきましたが、全体集会の中で、世界各地で核廃絶の運動が広がっている様子が報告され、力強い明るい希望を感じる事が出来ました。何事も決断して諦めることなく、続けることの大切さを学習しました。

この地球上から、全ての核がなくなるまで、私も微力ながら、命ある限り一人でも多くの人に核をなくす訴えを続けたいと思います。

大会に参加させて頂き、ありがとうございました

## 2019年原水爆禁止国民平和大行進栃木県実行委員会 結成総会開かれる

2月23日(土)午後、総合コミュニティーセンターにおいて、栃木県原水協参加団体・地域の代表者・個人等の参加で開催されました。

第一部で、「永遠なる平和―原水爆の惨禍―」のDVD視聴と「沖縄の話」と題して天谷静雄代表委員の報告で、原水爆禁止運動の原点や沖縄の現状等を学びました。

第二部の総会議事では、天谷実行委員長、副実行委員長、事務局が以下の通り選出・承認されました。事務局からの行進日程素案、財政の提案の後、質疑・討論が行われました。



実行委員長 天谷 静雄  
 副実行委員長 藤木智恵子  
 県北 我妻美津雄  
 県央 福田道夫  
 県南 白石幹男  
 芳賀 飯塚 正  
 事務局 大岩美代子 浜野いね子  
 小久保富治 小牧 一哉

### 「ヒバクシャ国際署名」数

諸 団 体	県北原水協	2,780筆
	県南原水協	102筆
	宇都宮市原水協	1,262筆
	非核の会	191筆
	新婦人の会	8,140筆
	民医連	2,142筆
	保険医協会	604筆
	県原水協	134筆
	小山推進委員会	140筆
	非核下野市の会	264筆
自 治 体	県 労 連	28筆
	栃木県平和委員会	54筆
	日 光 市	953筆
	下 野 市	494筆
	栃 木 市	81筆
合 計 (1/29 現在)	小 山 市	109筆
	上 三 川	160筆
	壬 生 町	165筆
	合 計	17,803筆